

分散型エネルギーの意義

(その2)

前回は分散型エネルギーの基本的な優位性について述べた。今回は、再生可能エネルギーの普及に関する分散型エネルギーの意義について述べてみよう。京都議定書が発効し、その後の議論の枠組みが合意され、また、昨今の原油高で再生可能エネルギーに関する期待が急速に高まっているからである。

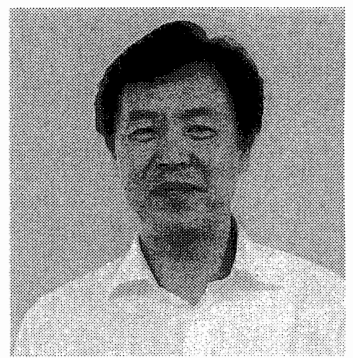
これに対して、再生可能エネルギーは世界全体に賦存している量は大きなが、個々の地域でのエネルギーの密度は低い。発電現場でもこれを集中する

ことは容易ではない。以下、個々のエネルギーを例に考えていく。まず、再生可能エネルギーの基本的なシステムとの親和性がある。以下、個々のエネルギーを例に考えていく。

風力発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。

太陽光発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。

水力発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。



（いぐま・ひとし）1958年生まれ。81年早稲田大学理工学部卒業、83年早稲田大学大学院理工学研究科修了。同年三菱重工業入社、89年同社退社。90年日本総合研究所入社。現在、同社執行役員、創発戦略センター所長。95年アイエスアイ・ジャパン設立と同時に同社取締役に就任（兼務）、03年イーキュービック設立と同時に同社取締役に就任（兼務）。早稲田大学大学院非常勤講師も務める。

再生可能エネルギー利用に不可欠な分散型

分散型エネルギー再生へ

エネルギー政策を問う ⑧

井熊 均 日本総合研究所 戦略開発センター 所長

エネルギー利用の効率性だけではない。自然の力を利用するだけに、あまりに集中した利用は、逆に自然環境に影響を及ぼす可能性もある。再生可能エネルギーをうまく使うには、世界中に分散して存在している、という再生可能エネルギーの生来の特性に、エネルギーシステムそのものを合わせる。

これを一カ所での発電量が小さいからといって、大きな工場やオフィ

スビルを対象にモデル事業を作り上げていたら、太陽光発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。

風力発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。

太陽光発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。

水力発電の今日の地位は、集中させるためのコストは相当なものになるはずだ。

再生可能エネルギー利用に不可欠な分散型

再生可能エネルギー利用に不可欠な分散型

再生可能エネルギー利用に不可欠な分散型

再生可能エネルギー利用に不可欠な分散型